

安全・安心、快適に過ごすことができる施設の整備

1. 給食について
2. プールについて
3. サポートルームについて
4. 特別支援教育について

1.給食について

① 現状と課題

項目	現状と課題
学校給食の方式	・ 小学校給食は、すべて自校調理を行う自校式給食 ・ 中学校給食は、給食センター調理で、高砂中学校は高砂小学校で調理した給食を運ぶ親子形式
施設の状況	・ 小学校の給食室は6校で築40年以上が経過し、うち3校は築50年以上が経過している ・ <u>ドライシステム方式は、小学校が4校と給食センター</u>、それ以外はウェットシステム方式（ドライ運用）となっている

【小学校給食室】

学 校 名	使用 ガス種	設置 年度	築年	耐震 基準	構造	面積 (㎡)	方式	エアコン設置状況					調理者休憩室			アレル ギー 対応	配食数 (R5)
							ドライ・ ウェット	調理	洗浄	下 処理	配膳 室	休憩	有無	トイレ	トイレ内 手洗い		
高砂小学校	都市	1972	53	旧耐震	RC	276	ウェット	4	0	0		1	有	有	有	対応済	94,901
荒井小学校	都市	1998	27	新耐震	RC	251	ドライ	5	3	2		1	有	有	無	対応済	146,816
伊保小学校	LP	1974	51	旧耐震	RC	216	ウェット	4	0	0		1	有	有	有	対応済	84,277
伊保南小学校	都市	1982	43	旧耐震	RC	189	ウェット	3	0	0		1	有	有	無	対応済	55,234
中筋小学校	LP	2002	23	新耐震	RC	365	ドライ	12	4	2		1	有	有	有	対応済	48,008
曾根小学校	LP	2002	23	新耐震	RC	444	ドライ	12	4	2		1	有	有	有	対応済	113,566
米田小学校	LP	1968	57	旧耐震	RC	191	ウェット	3	0	0		1	有	有	有	対応済	124,972
米田西小学校	都市	1980	45	旧耐震	RC	186	ウェット	3	0	0		1	有	有	有	対応済	100,392
阿弥陀小学校	LP	2011	14	新耐震	RC	286	ドライ	16	8	8		1	有	有	有	対応済	107,587
北浜小学校	LP	1979	46	旧耐震	RC	215	ウェット	3	0	0		1	有	有	有	対応済	44,238

※ウェットシステム方式を採用している給食室については、ドライ運用を行っている。
※耐震基準が旧耐震の建物については、補強を行っている。

【給食センター（中学校）】

学 校 名	使用 ガス種	設置 年度	築年	耐震 基準	構造	面積 (㎡)	方式	調理者休憩室			アレル ギー 対応	配食数 (R5)
							ドライ・ ウェット	有無	トイレ	トイレ内 手洗い		
高砂市学校給食センター	都市	2019	6	新耐震	S	2,720	ドライ	有	有	有	対応済	361,075

※1 ドライシステムとは、床を乾いた状態で使用する方式で、調理場内の湿度を低く保ち、細菌増殖を抑え、食中毒の発生要因を少なくすること。

※2 ドライ運用とは、調理器具の改善や作業方法を工夫し、ドライシステム方式と同様に床を乾いた状態に保つ運用のこと。

② 今後の方向性（案）

- ✓

小学校給食は、「施設の老朽化対策」と「学校給食衛生管理基準への適応」を進める
- ✓

老朽化する小学校の給食室更新に際しては、現在実施している自校方式を整備するが、再編の状況によっては給食センター方式の導入も検討する
- ✓

中学校給食は、学校給食センターによる配食方式を継続する

2. プールについて

① 現状と課題

項目	現状と課題
天候面での課題	- 本市の学校プールはいずれも屋外プールであり、水温が22℃以下の場合や、雨天時に利用できないことから、天候に指導計画が左右される - 近年の気候変動により、水温と気温が合わせて65℃を超える場合、熱中症の危険性が高まるため、晴天時でも授業実施を行えないことがある - 高温により、プールサイドでのやけど等の可能性もある
施設の老朽化	- 学校のプールは30年に1回程度、プール槽やろ過装置などの改修（大規模改修）を要する - 既にプール躯体が60年以上経過し、10年以内に建替えが必要な学校が複数校ある
日常的な維持管理経費	プール施設を維持管理するためには、ライフサイクルコストに加えて、保守費用、光熱水費や薬品代等の経常経費を要する
教員の負担軽減	- 文部科学省は、令和6（2024）年7月に「学校における働き方改革に配慮した学校プールの管理の在り方について（依頼）」を通知し、学校プールの管理業務が担当する教師等にとって過度な負担につながっている事態が見受けられるとしている - また、「学校設置者による必要な支援やチェック体制の構築等が十分に行われないまま、特定の教師等に学校プールの管理が任せられ、教師等が損害賠償の責めを負う恐れもある中で勤務する状況は望ましくありません。」とされている - 負担軽減のための取り組みとしては 以下のような方策が提示されている - 指定管理者制度の活用や民間業者への委託 - 学校で学校プールの管理を行う場合、管理員の配置や自動で給水を止めるためのシステムの導入、複層的なチェック体制の構築、マニュアルの作成等組織として適切に行うための環境整備 - 地域の公営・民営プールを活用した水泳指導

【小学校】

プール名	プール基礎情報					設備(ろ過装置)		付属屋			耐震化	車椅子利用	年間使用量(R6)	水道 料金 (円)	児童数 (R6)	
	建設 年度	経過 年数 (R7)	直近 改修 年度	地上/ 屋上	構造	改修年度	ろ過 方式	築年	経過 年数 (R7)	構造			水道(m³)		延べ 利用数	
													全体			
高砂小学校	1968	57	2001	地上	FRP	2001	回転ドラム	2002	23	R	実施済	可	1,563	894,821	322	2,582
荒井小学校	2000	25		地上	ステンレス		回転ドラム	2001	24	R	実施済	可	1,257	766,832	692	3,138
伊保小学校	1963	62	2013	地上	FRP	2013	珪藻土	1992	33	S	実施済	可	754	383,197	385	1,923
伊保南小学校	1982	43	2013	地上	FRP	2013	珪藻土	1982	43	R	実施済	可	767	391,249	263	1,279
中筋小学校	1971	54	2013	地上	FRP	2013	砂	1971	54	S	実施済	可	717	429,308	231	1,198
曾根小学校	1962	63	1999	地上	FRP	1999	砂	2000	25	R	実施済	可	746	513,420	531	2,247
米田小学校	1963	62	2000	地上	FRP	2000	回転ドラム	1999	26	R	実施済	可	1,454	909,230	653	2,793
米田西小学校	1980	45	2013	地上	FRP	2013	珪藻土	1980	45	S	実施済	可	1,485	927,344	527	2,706
阿弥陀小学校	2011	14		地上	FRP		砂	2011	14	R	実施済	可	922	539,572	512	2,983
北浜小学校	1963	62	2013	地上	FRP	2013	砂	2013	12	R	実施済	可	694	400,263	198	1,199

【中学校】

プール名	プール基礎情報					設備(ろ過装置)		付属屋			耐震化	車椅子利用	年間使用量(R6)	水道 料金 (円)	生徒数(R6)	
	建設 年度	経過 年数 (R7)	直近 改修 年度	地上/ 屋上	構造	改修年度	ろ過 方式	築年	経過 年数 (R7)	構造			水道(m³)		延べ 利用数	
													全体			
高砂中学校	1977	48	2013	地上	ステンレス	2013	珪藻土	1977	48	S	実施済	可	950	493,383	165	828
荒井中学校	1982	43	2001	地上	ステンレス	2001	珪藻土	1982	43	S	実施済	可	2,190	1,231,692	493	1,406
竜山中学校	1985	40	2013	地上	ステンレス	2013	珪藻土	1985	40	S	実施済	可	1,396	338,652	252	1,521
松陽中学校	1982	43	2001	地上	ステンレス	2000	砂	1982	43	S	実施済	可	1,279	626,085	446	3,829
宝殿中学校	1982	43	2013	地上	ステンレス	2013	砂	1975	50	S	実施済	可	2,207	1,357,250	568	3,338
鹿島中学校	1982	43	2013	地上	ステンレス	2013	珪藻土	1982	43	S	実施済	可	1,098	582,672	413	1,868

※水道料金には下水道の金額を含む（小・中学校とも）

② 今後の方向性（案）

- ✓ 小学校の水泳指導は民間プールへの委託化を段階的に進める
- ✓ 中学校の水泳指導については、小学校の委託化の状況を踏まえて検討を行う

3. サポートルームについて

① 現状と課題

項目	現状と課題
不登校児童生徒数の推移	- 小学校3年生以降は中学2年生まで、<u>学年が上がるごとに増加し、中学2年生または3年生が例年最も多くなっている</u> <u>小学校6年生から中学校1年生への進学時に例年増加</u>していることから、いわゆる「中1ギャップ」に対応できない子どもがいると考えられる
校内サポートルーム設置状況	- 校内サポートルームは、市内全小中学校に設置されている - 利用する児童生徒の増加により部屋のスペースが不足する可能性がある。 - パーテーション等で空間を仕切り、休憩や学習に集中できるような環境作りの検討が必要。

② 今後の方向性（案）

✓ サポートルームの環境整備に引き続き取り組み、
こどもたちの心の安定を図ることのできる学校
づくりを進める

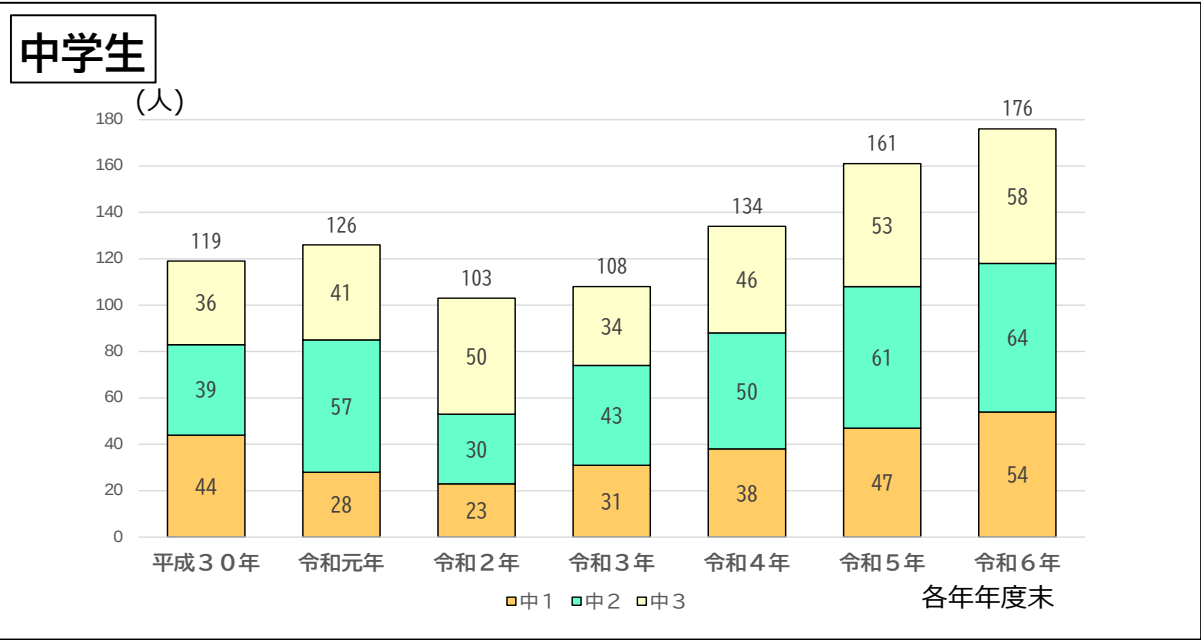
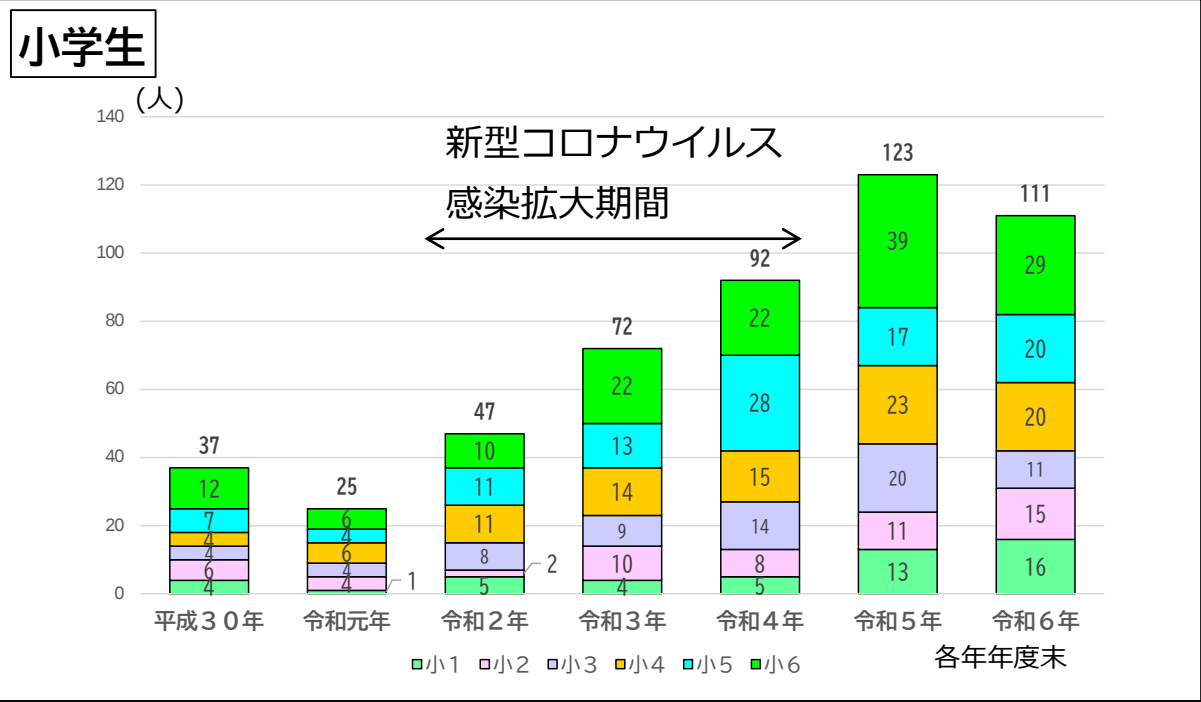


図 不登校児童生徒数の推移

4. 特別支援教育について

① 現状と課題

項目	現状と課題
特別支援学級在籍の児童生徒数の推移	- 平成18（2006）年の学校教育法改正による特別支援教育の本格的実施以降、児童生徒数は増加傾向となっており、<u>平成26（2014）年の80人から令和6（2024）年には245人と10年間で約3倍になっている</u> <u>今後もニーズが高まると予想</u>される
特別支援学級の設置状況	- 高砂市立学校の特別支援学級は6つの種別があり、知的障害学級、自閉症・情緒障害学級はおおむねすべての学校で設置されている <u>1クラスの最大人数が8人</u>であり、その人数を超えともう1クラス増やす必要がある - 必要な支援に応じてトイレやシャワーの設置など施設設備の対応が必要となる
教職員の配置状況	特別支援学級の教員は、特別支援学級を設置されているすべての学校に配置されている。

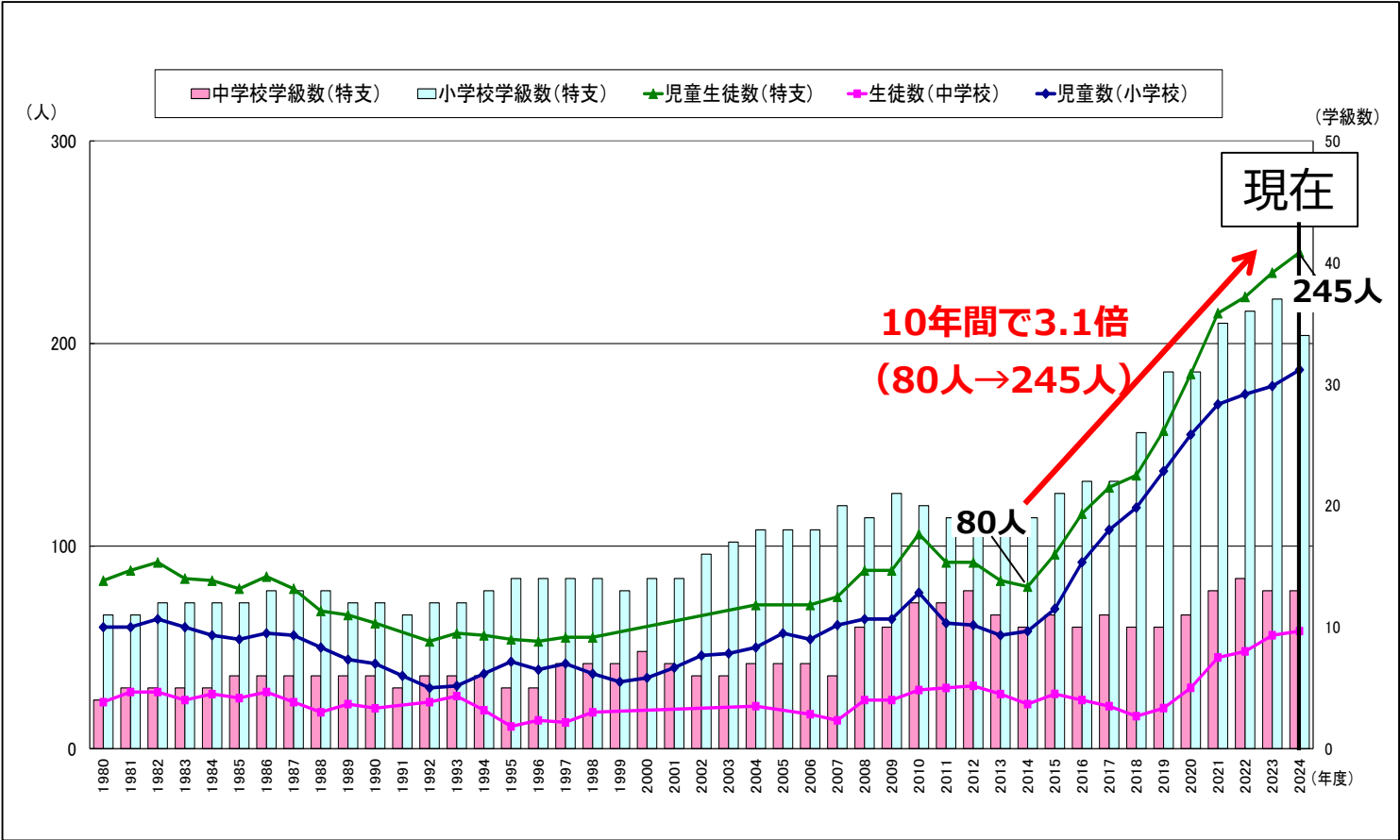


図 特別支援学級在籍の児童生徒数の推移

- 発達障害等に対する認知が広がり、早期に診断を受け、教育支援委員会での審議を希望する保護者が増えていることなどもあり、今後も児童生徒数が増加することが考えられる。

② 今後の方向性（案）

- ✓ 特別支援学級等の体制及び環境整備の充実を図る